

会員交流会(化学・材料グループ)開催

「知財業務の工夫と改善」

会員交流会(化学・材料グループ)が8月20日に住友クラブで開催されました。当日は10名が参加し、「知財業務の工夫と改善」をテーマに、グループリーダーの河野広明弁理士の司会で論議されました。

はじめに、河野弁理士より今回のテーマは企業文化が反映されるので様々な取組みがあるだろうと述べられ、その後、知財部門の陣容と出願件数等、特許管理システムの導入状況、他社ウォッチングの仕方、職務発明と関係した実績評価など、知財業務の実情が各企業から報告されました。概要を以下に記します。

会員企業からは次のようなことが述べられました。

- ・国内出願の場合、代理人依頼と内作、どちらがよいか？
- ・出願前に特許化の概略費用を社内に知らせたいが、中間処理の程度により権利化の費用が大きく異なるので困っている。
- ・実験ノートの管理や記入の指導の仕方の良い知恵はないか。(なお、実験ノートの必要性については、前回の会以降、メールで活発な議論がなされた。)
- ・職務発明の寄与度や退職者、転職者への対応で多くの工数を割いている。
- ・法務部がないので、各種契約書の検討・管理などの知財以外の業務もおこなわなければならない。特に外国語契約書のチェックと管理が問題。
- ・セキュリティーシステムは、厳しくすると業務にも差し支えるし、苦情もでる。
- ・特許管理ソフトはどれがよいか？
- ・効率的な中間処理の方法は？
- ・他社権利の管理は知財か、技術者か？

参加者は他社の現状や知財担当の意見を聞くことができ、今後の特許管理やセキュリティーシステムの推進や導入などを検討する上で、大いに参考になったようです。

【次回の予定】 化学・材料グループ：10月22日(水) 14:00～17:00

テーマ：「出願書類の基準・管理について(失敗談とその対策等)」

なお、電気・機械グループは、9月12日(水) 14:00～17:00に、最近、法改正があった意匠に関して、「意匠業務についての現状と課題」について議論の予定です。

※会員交流会には、いつでも参加できます。ご希望の会員は当協会の事務局にご連絡ください。